

## 【東地区】

第1日(12月7日)

### 基調講演

「大学改革の中で大学図書館に求められる変革とは何か」(三重大学副学長・附属図書館長 亀岡孝治)

#### 1. はじめに

私は三重大学の情報・国際交流・広報担当の副学長と附属図書館長を兼務している。APAN (Asia-Pacific Advanced Network アジア太平洋高度ネットワーク) 国際会議にも関わっており、これらをどう有機的に結びつけていくかという観点から話をする。

#### 2. 三重大学の大学図書館戦略

##### (1) 使命と目標

三重大学のミッションは「三重から世界へ」である。附属図書館では「教育、研究、学習及び社会貢献において、三重大学が卓越した業績を上げるため、必要な情報を収集・発信し、利用者と情報を有機的に繋ぐ役割を果たす。」というミッションを掲げている。この「社会貢献」には、国際貢献も含まれる。

今後10年間の目標は①附属図書館を含むICTセンター(後述)を中心としたU-Campusを実現する、②アジア・パシフィックにおけるE-Cultureのアーカイブ拠点となる、③地域に根ざした情報の受発信の拠点、地域から世界へ発信する拠点となる、である。

##### (2) 戦略

三重大学は広報・情報・国際戦略の一元管理を目指して、これらを兼務する副学長のポストを設置した。事務システムと図書システムの一元管理、大学全体の国際交流活動の一元化、広報の一環としてのホームページの充実などを進めている。

##### (3) ICTセンター構想

附属図書館と総合情報処理センターを一体化した総合情報メディア館を置き、さらに国際交流センターとも連携させたICTセンターを構想している。

総合メディア館においては、戦略を図書館が担い、技術は総合情報処理センターが受け持つ。国際交流センターにバーチャル研究センターを置き、APANに対応したE-Science、E-Cultureと大学全体のアーカイブを図書館に置く。大学のみでなく地域に貢献していくという構想である。

#### 3. 三重大学の情報国際交流戦略

##### (1) 概要

ネットワーク戦略を進めるにあたって、流通させるコンテンツを考えている。遠隔教育事業やAPAN国際会議その他にかかわる多様なコンテンツを整備している最中であり、それらを設計中のICTセンターのシステムに組み込む作業を進めている。

他には、ホームページの作成における派遣スタッフの活用、各部門の書類のペーパーレス化、教員データベースや評価データベースの形成、学務ポータルやグループウェアの導入等を実施している。

##### (2) 総合情報メディア館

総合情報メディア館には、5つの機能(インフラ構築機能、情報リテラシー強化機能、学術ポータル機能、コンテンツ形成機能、研究開発機能)を持たせたい。

E-Learningについては、サーバとソフトが入った段階である。フリーソフトを使って安価に仕上げる方向で、E-Universityを模索している。

関連部局として、総合情報処理センター、附属図書館、教育実践総合センター、附属病院医療情報部などが並存しているが、これらを総合情報メディア館に吸収していきたい。

##### (3) 図書館の活動

図書館はアクティブに活動している。地域貢献を重視していることが特徴で、ホームページも充実している。図書館の文化を全学にいかに関及させるかが三重大学のポイントであると考えている。

たとえばイオンの岡田財団から資金援助を受け、土井治コレクション<sup>1)</sup>をデジタル化した。三重大学には貴重な蔵書がなく、三重県内の蔵書や古文書を発掘していくことが今後の課題である。また、各種の講演会やシンポジウムを行っている。地震への対処法などを地域に知らせることを目的としたシンポジウムなどを実施した。ホームページでは、中高生にわかりやすいコンテンツの提供も行っている。

##### (4) E-LearningとE-University

遠隔教育を活用した開放大学、双方向性の確保、大学の国際化という観点から、E-Learningの推進が求められている。まず基盤インフラ層の整備が必要である。その上に応用アプリケーション層、コンテンツ層ができ、さらにその上にキャンパスカルチャ層ができあがってからが勝負であると考えている。

また、PBL (Problem Based Learning) とCSCL (Computer Support for Collaborative Learning) をキーコンセプトとした三重大学独自の戦略を展開中である。医学部で導入しているPBLを全学的に

展開していくこと、特に文系領域の教育へのPBLの波及が課題である。

#### (5) ICカード化戦略

ICカード化は社会的な趨勢である。三重大学では地域情報戦略として位置づけ、地元企業や地方公共団体とのコンソーシアムを形成しつつ展開している。

ハイブリッドICクレジットカードというシステムを考えており、入学前からOBに至るまでの情報一元管理の一部としてICカードを位置付けていく。このカードは、地域でも有効なカードとし、さまざまな機能を持たせ、大学のブランドにしていきたい。

#### (6) 国際交流センター

留学生センターと国際交流室を母体に設置したもので、地域と連携して国際交流活動を展開中。英語を使って留学生と教職員・学生が交流する場である国際交流サロンを図書館の中に設置する予定である。

#### (7) APAN国際会議

デジタル化したアジア地図の上にサービス層を載せる“Digital Asia Research Center for Geo-Strategy”のセンターを、三重大学にも創る予定である。国際交流センターの中にE-ScienceとE-Cultureの部門を置く。母体となるAPANはアジア・太平洋を結ぶ高速回線であり、このネットワーク上にいろいろな研究がなっている。インターネット技術や農業、地球観測、バイオインフォマティクスなどの研究が行われており、今後はE-Culture（人文社会科学分野）の立ち上げを目指している。この中で三重大学がどう役割を果たしていくのが課題である。

### 4. ユビキタスネットワーク社会に向けて

個人がいつでもどこでもITを利用できるユビキタス社会に急激に変貌しつつある。キャンパスでも携帯電話等を無線LANの端末として授業等に取り込んでいくU-Campusが普通になるだろう。大学のシステムが情報面での劇的な変化に付いていけるか、利用者が使いこなすことができるかが大きな課題である。

三重大学においては、農水省のITプロジェクトに私がリーダーで関わっていることから、これをU-Campusに展開していこうとしている。このプロジェクトのキラーコンテンツはフィールドサーバ（現場に設置して環境計測、テレビカメラ、無線LAN、Webサーバの機能を持たせることのできる装置）であり、子ども教育のネットワークをつくるなどの事業を展開しているが、U-Campusに持ち込んでいくことも考えている。

### 5. 三重大学の広報戦略

広報戦略には次の課題がある。

- ・図書館の発信するコンテンツを、大学全体の情報インフラの中で見せていく必要がある。
- ・全学のホームページを、デザインを重視したものにつくり直すプロジェクトを進行中である。
- ・従来の大学広報誌のイメージから脱皮した地域を意識した新しい広報誌をつくりたい。

### 6. 最後に

法人化されたにも関わらず、自由度は少なく、多くの縛りがある。そこで三重大学では大学の戦略を予算獲得や人材確保の面でより柔軟に展開していくことを目的として、NPO法人を立ち上げた。

三重大学は地域圏大学の顔になる必要がある。三重県の地域コンテンツは多数あり、もっと発掘していく必要がある。大学がなすべきことは多くある。

日本の大学は国際化されておらず、意思決定の遅さが今後は致命的になる。図書館は、国際的な視野を持っており、情報技術の面でも進んでいる。大学の頭脳と化して先導的に大学を引っばってってもらいたい。